

令和8年度 第1回羽島市特別支援教育連携協議会 (会議要旨)

日 時	令和8年6月4日(木) 午後2時00分～午後2時45分	
場 所	市民会館 第1会議室	
出席者	【出席委員】 ・小中学校長会を代表する者 ・特別支援コーディネーターを代表する者 ・羽島市PTA連合会を代表する者 ・特別支援教育助成会を代表する者 ・社会福祉事業所を代表する者 ・学識経験者 ・学識経験者 ・羽島市医師会代表 ・羽島市学校医代表 ・中央子ども相談センター代表	・羽島市健幸課健幸担当課長 ・羽島市内保育園及び幼稚園を代表する者 ・教育委員会事務局を代表する者 ・発達支援センター代表 ・羽島市手をつなぐ親の会代表 ・教育委員会事務局を代表する者 【事務局】 ・学校教育課特別支援教育係長 【欠席】 ・2名
内 容	1 委嘱書交付 2 あいさつ 3 議事 令和8年度の羽島市の特別支援教育について (1) 令和8年度羽島市特別支援教育 ・岐阜県・羽島市の特別支援教育の動向 ・羽島市の特別支援教育の重点 (2) 令和8年度羽島市特別支援教育関係会務計画 4 ご指導	
まとめ	・2030年問題(少子高齢化)と言われており、学習指導要領も改訂となる。改定にあたり、授業時数を減らすことや学校のニーズに合わせて教育課程を編成することができることについて言われている。 ・これからの教育では、知識よりも活用が重要になってくる。ICTは教育において、益々重要になってくる。そのため、現在のSNSの問題等が言われているように、活用するときの道徳的マナーを学ぶことが重要である。また、AIの活用も必要になってくる。今までの教育は、知識として覚えているかを評価してきたが、これからは、知識をどう活用するかが鍵となる。AIが出す答えではないことをどう教えていくかが大切である。 ・現在は、特別な配慮を要する子が特別支援教育の対象者となっている。今後、そこに外国籍の子や不登校の子も対象者として加わると言われている。教育の基本として、特別支援教育の対応が重要となってきている。また、特異的な個性のある子に対して、特別支援教育のノウハウを使うことが求められている。世の中の変化は、思っているより早い。先を考え、早めに準備しておくことが大切である。 ・全国的に、5歳児健診を行うことになってきている。同じ時期に行う就学時健診と5歳児検診をどのようにからませていくのかを考えていく必要がある。 ・大人の便利は、子どもの成長を妨げている。公園の回転するジャングルジムの撤去、キャッチボールできない公園などがその例である。これまでは、子どもたちは遊びの中で感覚統合をして発達してきたが、そういう機会を大人が奪っている。また、スマホで育てられてきた子どもたちは、どういう大人になっていくのだろうかとも思う。就学に関しても、大人の都合で考えず、子どものことを第一に考えていくべきである。 ・特別支援学級や通級指導教室での指導を受けていない通常の学級にいる支援の必要な子にどんな支援をしていくかが課題である。授業の中で、一人でも多くの子どもが分かるようにする工夫をしていけるとよい。個によって、学び方の違いがある。例えば、視覚から情報が入った方がよい子と聴覚から情報が入った方がよい子がいるとすると、両方に配慮した授業をすることで、どちらの子にとっても分かる授業になる。このようなことが、通常の学級においても、当たり前の支援になっていくとよい。	
	※特記事項・・・特になし	

